

厚生労働大臣 殿

国立大学法人長崎大学  
学長 齋藤

長崎大学医学部・歯学部附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法第12条の3の規定に基づき、平成18年度の業務に関して報告します。

記

- 1 高度の医療の提供の実績 → 別紙参照(様式第10)
- 2 高度の医療技術の開発及び評価の実績 → 別紙参照(様式第11)
- 3 高度の医療に関する研修の実績

研修医の人数	97人
--------	-----

(注) 前年度の研修医の実数を記入すること。

- 4 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の体系的な管理方法  
→ 別紙参照(様式第12)
- 5 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び閲覧の実績
- 6 他の病院又は診療所から紹介された患者に対する医療提供の実績  
→ 別紙参照(様式第13)

7 医師、歯科医師、薬剤師、看護婦及び准看護婦、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計	職種	員数	職種	員数
医師	205人	281人	442.6人	看護業務補助	44人	診療エックス線技師	0人
歯科医師	110人	47人	153.6人	理学療法士	8人	臨床検査技師	45人
薬剤師	26人	12人	38.0人	作業療法士	3人	衛生検査技師	0人
保健師	0人	0人	0.0人	視能訓練士	2人	その他	0人
助産師	23人	0人	23.0人	義肢装具士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人
看護師	587人	8人	593.0人	臨床工学技師	6人	医療社会事業従事者	4人
准看護師	2人	0人	2.0人	栄養士	2人	その他の技術員	9人
歯科衛生士	6人	5人	11.0人	歯科技工士	6人	事務職員	169人
管理栄養士	5人	3人	8.0人	診療放射線技師	33人	その他の職員	42人

(注) 1 報告を行う当該年度の10月1日現在の員数を記入すること。

2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含まないで記入すること。

3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

8 入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科及び小児歯科の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	710.9人	0.2人	711.1人
1日当たり平均外来患者数	1,065.4人	367.1人	1,432.5人
1日当たり平均調剤数			17,172剤

(注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療科を受診した患者数を記入すること。

2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。

3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。

4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

1 高度先進医療の承認の有無及び取扱い患者数

高度先進医療の種類 (医科)	承認	取扱い患者数
・顔面骨、頭蓋骨の観血的移動術	有・無	人
・培養細胞による先天性代謝異常診断	有・無	人
・溶血性貧血症の病因解析並びに遺伝子解析診断法	有・無	人
・経皮的埋め込み電極を用いた機能的電気刺激療法	有・無	人
・人工括約筋を用いた尿失禁の治療	有・無	人
・人工中耳	有・無	人
・実物大臓器立体モデルによる手術計画	有・無	人
・レーザー血管形成術	有・無	人
・悪性腫瘍の遺伝子診断	有・無	人
・進行性筋ジストロフィーのDNA診断	有・無	人
・性腺機能不全の早期診断法	有・無	人
・経皮的レーザー椎間板切除術	有・無	人
・活性化自己リンパ球移入療法	有・無	人
・造血器腫瘍細胞における薬剤耐性遺伝子産物P糖蛋白の測定	有・無	人
・スキンドファイバー法による悪性高熱症診断法	有・無	人
・血小板膜糖蛋白異常症の病型及び病因診断	有・無	人
・焦点式高エネルギー超音波療法	有・無	人
・Open MRを用いた腰椎椎間板ヘルニアに対するYag Laserによる経皮的椎間板減圧術	有・無	人
・脳死肝臓移植手術	有・無	人
・肺腫瘍のCTガイド下気管支鏡検査	有・無	人
・先天性血液凝固異常症の遺伝子診断	有・無	人
・筋緊張性ジストロフィー症のDNA診断	有・無	人
・SDI法による抗癌剤感受性試験	有・無	人
・内視鏡下頸部良性腫瘍摘出術	有・無	17人
・栄養障害型表皮水泡症のDNA診断	有・無	人
・家族性アミロイドーシスのDNA診断	有・無	人
・三次元形状解析による顔面の形態的診断	有・無	人
・マス・スペクトロメトリーによる家族性アミロイドーシスの診断	有・無	人
・抗癌剤感受性試験	有・無	人
・子宮頸部前癌病変のHPV-DNA診断	有・無	人
・不整脈疾患における遺伝子診断	有・無	人
・腹腔鏡下肝切除術	有・無	人
・画像支援ナビゲーション手術	有・無	人
・悪性腫瘍に対する粒子線治療	有・無	人
・エキシマレーザーによる治療的角膜切除術	有・無	人
・成長障害のDNA診断	有・無	人
・心臓移植手術	有・無	人
・腹腔鏡下前立腺摘除術	有・無	人
・生体部分肺移植術	有・無	人
・CT透視ガイド下生検	有・無	人
・門脈圧亢進症に対する経頸静脈的肝内門脈大循環短絡術	有・無	人

高度先進医療の種類 (医科)	承認	取扱い患者数
・乳房温存療法における鏡視下腋窩郭清術	有・無	人
・悪性黒色種におけるセンチネルリンパ節の遺伝子診断	有・無	人
・腫瘍性骨病変及び骨粗鬆症に伴う骨脆弱性病変に対する経皮的骨形成術	有・無	人
・声帯内自家側頭筋膜移植術	有・無	人
・骨髄細胞移植による血管新生療法	有・無	人
・ミトコンドリア病のDNA診断	有・無	人
・悪性黒色腫、乳癌におけるセンチネルリンパ節の同定と転移の検索	有・無	人
・鏡視下肩峰下腔除圧術	有・無	人
・神経変性疾患のDNA診断	有・無	人
・脊髄性筋萎縮症のDNA診断	有・無	人
・難治性眼疾患に対する羊膜移植術	有・無	人
・固形がんに対する重粒子線治療	有・無	人
・脊椎腫瘍に対する腫瘍脊椎骨全摘術	有・無	人
・カフェイン併用化学療法	有・無	人
・ <sup>31</sup> P-磁気共鳴スペクトロスコピーとケミカルシフト画像による糖尿病性足病変の非侵襲診断	有・無	人
・特発性男性不妊症・性腺機能不全症の遺伝子診断	有・無	人
・胎児尿路一羊水腔シャント術	有・無	人
・遺伝性コプロポルフィリン症のDNA診断	有・無	人
・固形腫瘍(神経芽種)のRNA診断	有・無	人
・硬膜外腔内視鏡による難治性腰下肢痛の治療	有・無	人
・重症BCG副反応症例における遺伝子診断	有・無	人
・自家液体窒素処理骨による骨軟部腫瘍切除後骨欠損の再建	有・無	人
・脾腫瘍に対する腹腔鏡補助下脾切除術	有・無	人
・低悪性度非費ホジキンリンパ腫の遺伝子診断	有・無	人
・悪性脳腫瘍に対する抗癌剤治療における薬剤耐性遺伝子解析	有・無	人
・高発癌性遺伝性皮膚疾患のDNA診断	有・無	人
・筋過緊張に対するmuscle afferent block(MAB)治療	有・無	人
・Q熱診断における血清抗体価測定および病原体遺伝子診断	有・無	人
・エキシマレーザー冠動脈形成術	有・無	人
・活性化Tリンパ球移入療法	有・無	人
・抗癌剤感受性試験(CD-DST法)	有・無	人
・脾臓移植手術	有・無	人
・胸部悪性腫瘍に対するラジオ波焼灼療法	有・無	人
・家族性アルツハイマー病の遺伝子診断	有・無	人
・腎悪性腫瘍に対するラジオ波焼灼療法	有・無	人
・膀胱尿管逆流症に対する腹腔鏡下逆流防止術	有・無	人
・脳死肺移植手術	有・無	人
・中枢神経白質形成異常症の遺伝子診断	有・無	人
・三次元再構築画像による股関節疾患の診断と治療	有・無	人
・樹状細胞と腫瘍抗原ペプチドを用いた癌ワクチン療法	有・無	人
・内視鏡下甲状腺癌手術	有・無	人
・骨腫瘍のCT透視ガイド下経皮的ラジオ波焼灼療法	有・無	人
・泌尿生殖器腫瘍の後腹膜リンパ節転移に対する腹腔鏡下リンパ節郭清術	有・無	人

高度先進医療の種類 (医科)	承認	取扱い患者数
・HLA抗原不一致血縁ドナーからのCD34陽性造血幹細胞移植	有・無	人
・下肢静脈瘤に対する血管内レーザー治療法	有・無	人
・頸椎椎間板ヘルニアに対するYag-Laserによる経皮的椎間板減圧術(CT透視下法)	有・無	人
・胎児胸腔・羊水腔シャントチューブ留置術	有・無	人
・活性化血小板の検出	有・無	人
・早期胃がんに対する腹腔鏡下センチネルリンパ節検索	有・無	人
・ケラチン病の遺伝子診断	有・無	人
・隆起性皮膚線維肉腫の遺伝子診断	有・無	人
・抹消血幹細胞 (CD34陽性細胞に限る。) による血管再生治療	有・無	人
・抹消血単核球移植による血管再生治療	有・無	人
・副甲状腺内活性型ビタミンD (アナログ) 直接注入療法	有・無	人
・グルタミン受容体自己抗体による自己免疫性神経疾患の診断	有・無	人
・腹腔鏡下広汎子宮全摘出術	有・無	人
・一絨毛膜性双胎妊娠において発症した双胎間輸血症候群に対する内視鏡的胎盤吻合血管レーザー焼灼術	有・無	人
・自己腫瘍 (組織) を用いた活性化自己リンパ球移入療法	有・無	人
・自己腫瘍 (組織) 及び樹状細胞を用いた活性化自己リンパ球移入療法	有・無	人

高度先進医療の種類 (歯科)	承認	取扱い患者数
・インプラント義歯	有・無	5人
・顎顔面補綴	有・無	人
・顎関節症の補綴学的治療	有・無	人
・歯周組織再生誘導法	有・無	人
・接着ブリッジによる欠損補綴並びに動揺歯固定	有・無	4人
・光学印象採得による陶材歯冠修復法	有・無	人
・X線透視下非観血的唾石摘出術	有・無	人
・レーザー応用によるう蝕除去・スケーリングの無痛療法	有・無	人
・顎関節鏡視下レーザー手術併用による円板縫合固定術	有・無	人
・顎関節脱臼内視鏡下手術	有・無	人
・耳鼻咽喉領域の機能障害を伴った顎関節症に対する中耳伝音系を指標とした顎位決定法	有・無	人

先進医療の種類	承認	取扱い患者数
・高周波切除器を用いた子宮腺筋症核出術	有・無	人
・自動吻合器を用いた直腸粘膜脱又は内痔核手術(PPH)	有・無	人
・画像支援ナビゲーションによる膝靭帯再建手術	有・無	人
・凍結保存同種組織を用いた外科治療	有・無	人
・強度変調放射線治療	有・無	人
・胎児心超音波検査	有・無	人
・内視鏡下小切開泌尿器腫瘍手術	有・無	人
・画像支援ナビゲーションによる内視鏡下鼻内副鼻腔手術	有・無	人
・インプラント義歯	有・無	人

先進医療の種類	承認	取扱い患者数
・顎顔面補綴	有・無	人
・人工中耳	有・無	人
・歯周組織再生誘導法	有・無	人
・抗がん剤感受性試験	有・無	人
・腹腔鏡下肝切除術	有・無	人
・生体部分肺移植術	有・無	人
・活性化血小板の検出	有・無	人
・末梢血幹細胞による血管再生治療	有・無	人
・カラー蛍光観察システム下気管支鏡検査及び光線力学療法	有・無	人
・先天性銅代謝異常症の遺伝子診断	有・無	人
・超音波骨折治療法	有・無	人
・眼底三次元画像解析	有・無	人
・CYP2C19遺伝子多型検査に基づくテラレーメイドのヘリコバクター・ピロリ除菌療法	有・無	人
・非生体ドナーから採取された同種骨・靱帯組織の凍結保存	有・無	人
・X線CT診断装置及び手術用顕微鏡を用いた歯根端切除手術	有・無	人
・定量的CTを用いた有限要素法による骨強度予測評価	有・無	人

- (注) 1 「取扱い患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。  
2 高度先進医療で上の表に掲げられていないものを行っている場合は、空欄の部分に記入すること。  
3 先進医療での上の表に掲げているものは、今年度の業務に関する報告の対象ではないが来年度以降の参考のため記入すること。

## 2 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾患名	取扱い患者数	疾患名	取扱い患者数
・ベーチェット病	51人	・モヤモヤ病(ウイルス動脈輪閉塞症)	39人
・多発性硬化症	31人	・ウェグナー肉芽腫症	8人
・重症筋無力症	59人	・特発性拡張型(うっ血型)心筋症	40人
・全身性エリテマトーデス	224人	・多系統萎縮症	10人
・スモン	1人	・表皮水泡症(接合型及び特発性)	5人
・再生不良性貧血	28人	・膿疱性乾癬	5人
・サルコイドーシス	76人	・広範脊柱管狭窄症	0人
・筋萎縮性側索硬化症	8人	・原発性胆汁性肝硬変	40人
・強皮症、皮膚筋炎及び多発性筋炎	185人	・重症急性膵炎	2人
・特発性血小板減少性紫斑病	58人	・特発性大腿骨頭壊死症	51人
・結節性動脈周囲炎	24人	・混合性結合組織病	46人
・潰瘍性大腸炎	142人	・原発性免疫不全症候群	6人
・大動脈炎症候群	36人	・特発性間質性肺炎	10人
・ピュルガー病	12人	・網膜色素変性症	13人
・天疱瘡	13人	・プリオン病	1人
・脊髄小脳変性症	24人	・原発性肺高血圧症	7人
・クローン病	84人	・神経繊維腫症	29人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	1人	・亜急性硬化性全脳炎	0人
・悪性関節リウマチ	20人	・バット・チリ(Budd-Chiari)症候群	4人
・パーキンソン病関連疾患	40人	・特発性慢性肺血栓栓症(肺動脈型)	7人
・アミロイドーシス	5人	・ライゾーム病(ファブリー[Fabry]病含む)	2人
・後縦靱帯骨化症	28人	・副腎白質ジストロフィー	1人
・ハンチントン病	0人		

(注) 「取扱い患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

### 3 病院・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	①.臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 ②.臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている		
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	3種類の検討会を毎月		
剖検の状況	剖検症例数	38例	剖検率 14.3%

(様式第11)

## 高度の医療技術の開発及び評価の実績

## 1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
光触媒超親水性効果はオッセオインテグレーションを亢進する	澤瀬 隆	第1 楠綴科	13,130	(補委) 文部科学省科学研究費
臓器特異性機序に基づく薬理学的プレコンディショニング法の開発	澄川 耕二	麻酔科	3,500	(補委) 文部科学省科学研究費
心筋の薬理学的プレコンディショニングの分子機序-PI3K-Akt活性を介して-	吉富 修	集中治療部	1900	(補委) 文部科学省科学研究費
心筋細胞におけるGlutaredoxinの抗アポトーシス効果の分子生物学的解析	小出 史子	麻酔科	1900	(補委) 文部科学省科学研究費
成人難治性白血病に対する治療法の開発と標準治療法確立に関する研究	朝長 万左男	原研内科	6,500	(補委) 厚生労働省科学研究費
高感受性悪性腫瘍に対する標準的治療法確立のための多施設共同研究	朝長 万左男	原研内科	1,000	(補委) 厚生労働省科学研究費
特発性造血障害に関する研究	朝長 万左男	原研内科	2,000	(補委) 厚生労働省科学研究費
難治性悪性リンパ腫に対する分子標的治療薬を用いた薬物療法の研究	朝長 万左男	原研内科	2,000	(補委) 厚生労働省科学研究費
頭蓋顔面骨由来間葉系幹細胞を用いた頭蓋顔面骨再生	平野明喜	形成外科	8,800	(補委) 文部科学省科学研究費
生体内の種々の条件に対応した微小血管再生と分子発現・調節	田中克己	形成外科	2,500	(補委) 文部科学省科学研究費
ケロイドにおける一塩基多型解析	秋田定伯	形成外科	3,200	(補委) 文部科学省科学研究費
非ヒト霊長類を用いたスカーレス・ウインド・ヒーリングの遺伝子・蛋白因子解析	秋田定伯	形成外科	500	(補委) 日本リディアオリリー協会
KGFを用いた気管軟骨創傷治癒の人為的コントロールの検討	阿保貴章	第1 外科	1,700	(補委) 文部科学省科学研究費
重症肺気腫に対する遺伝子治療の開発	永安 武	第1 外科	2,500	(補委) 文部科学省科学研究費
基盤研究 (B) (2) 関節リウマチにおける自然免疫系の解明とその制御	江口勝美	第一内科	4,300	(補委) 文部科学省科学研究費
抗アセチルコリンレセプター抗体陰性、抗 MuSK 抗体陽性重症筋無力症患者の病態	吉村俊朗	第一内科	900	(補委) 文部科学省科学研究費
HAM における Th1 サイトカイン発現に関与するシグナル伝達系の解明	中村龍文	第一内科	1,400	(補委) 文部科学省科学研究費
脳内移行性をターゲットにしたペントサンポリ硫酸の改変によるプリオン病の治療薬開発	調 漸	第一内科	1,800	(補委) 文部科学省科学研究費

抗 MuSK 抗体陽性重症筋無力症の発症機序：実験的自己免疫動物モデルの作成	本村政勝	第一内科	2,200	(補委)	文部科学省科学研究費
滑膜線維芽細胞の増殖・アポトーシス・分化の方向性を規定するシグナル伝達機序の解明	川上 純	第一内科	1,300	(補委)	文部科学省科学研究費
廃用性萎縮筋における免疫性化学的変化の解析およびリハビリテーションの影響	折口智樹	第一内科	1,100	(補委)	文部科学省科学研究費
新しい展開をみせたグランザイムBによる自己免疫疾患発症・病態形成への役割への検討	井田弘明	第一内科	1,400	(補委)	文部科学省科学研究費
本邦初の TRAPS 患者の全国大規模疫学調査と診断基準の作成に関する研究	井田弘明	第一内科	3,100	(補委)	文部科学省科学研究費
免疫アレルギー疾患予防・治療研究事業 リウマチ・アレルギー疾患の治療反応因子の確立及びテーラーメイド治療法の確立に関する研究	川上 純	第一内科	2,000	(補委)	厚生労働省科学研究費
免疫アレルギー疾患予防・治療研究事業 関節リウマチ治療における新規生物製剤の治療方針の作成及び検証に関する研究	井田弘明	第一内科	1,500	(補委)	厚生労働省科学研究費
肝炎等克服緊急対策研究事業 肝硬変に対する治療に関する研究	中尾一彦	第一内科	1,000	(補委)	厚生労働省科学研究費
効果的医療技術の確立推進臨床研究事業 糖尿病における血管合併症の発症予防と進展抑制に関する研究	川崎英二	第一内科	350	(補委)	厚生労働省科学研究費
インスリンB鎖ペプチドワクチンによる、新しい1型糖尿病発症抑制・寛解療法の開発	阿比留教生	第一内科	1,100	(補委)	文部科学省科学研究費
クロイツフェルト・ヤコブ病の生化学マーカーの継続的検討と病態における意義	佐藤克也	第一内科	1,900	(補委)	文部科学省科学研究費
免疫アレルギー疾患予防・治療研究事業 関節リウマチの早期診断法の確立及び臨床経過の予測に関する研究	江口勝美	第一内科	25,000	(補委)	厚生労働省科学研究費
難治性疾患克服研究事業 自己免疫疾患に関する調査研究	江口勝美	第一内科	2,000	(補委)	厚生労働省科学研究費
難治性疾患克服研究事業 免疫性神経疾患に関する調査研究	中村龍文	第一内科	900	(補委)	厚生労働省科学研究費
特定疾患対策研究事業/こころの健康科学研究事業 HTLV-I プロテアーゼ阻害剤による HAM 治療法の開発ならびに HAM 発症予防に関する研究	中村龍文	第一内科	1,000	(補委)	厚生労働省科学研究費
ヒトゲノム・再生医療等研究事業	詞 漸	第一内科	7,700	(補委)	厚生労働省科学研究費



難治性疾患克服事業プリオン病及び遅発性遅発性ウイルス感染に関する研究 クロイツフェルト・ヤコブ病 (CJD) -患者におけるキナクリン投与の治療成績とその問題点-	調 漸	第一内科	2,000	(補)委	厚生労働省科学研究費
難治性疾患克服研究事業 免疫性神経疾患に関する調査研究	本村政勝	第一内科	500	(補)委	厚生労働省科学研究費

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

## 2 論文発表等の実績

雑誌名・年月	題 名	発表者氏名	所属部門
J Oral Rehabil. 2006 Apr	Implant-retained overdenture following hemiglossectomy: a 10-year clinical case report	平 曜輔	第1補綴科
Implant Dent. 2006 Dec	A cast metal core for a deformed implant body: case report	添野 光洋	1補綴科
Br J Surg 93: 61-6,2006	Video-assisted subtotal or near-total thyroidectomy for Graves' disease.	Maeda S, Uga T, Hayashida N, Ishigaki K, Furui J, Kanematsu T:	第二外科
Br J Surg 93: 503,2006	Video-assisted subtotal or Near-total thyroidectomy for Graves' disease.	Maeda S, Hayashida N, Kanematsu T	第二外科
Anesthesia and Analgesia 2006年4月	Anticholinesterase drugs stimulate smooth muscle contraction of the rat trachea through the Rho-kinase pathway.	柴田 治	手術部
The Clinical journal of pain 2006年5月	Evaluation of allodynia and pain associated with postherpetic neuralgia using current perception threshold testing.	境 徹也	麻酔科
Anesthesia and Analgesia 2006年9月	Propofol attenuates ovalbumin-induced smooth muscle contraction of the sensitized rat trachea: inhibition of serotonergic and cholinergic signaling.	山口 昌一	手術部
ICUとCCU・2007年3月	間質性肺炎の急性増悪に対するPMXを用いた血液浄化療法の有用性	石本裕士	第二内科
Exp Hematol 34: 19-26, 2006	Chemokine expression in human erythroid leukemia cell line AS-E2: macrophage inflammatory protein-3α/CCL20 is induced by inflammatory cytokines.	井上 順子	原研内科
Leuk Lymphoma 47: 261-266, 2006	Comparative genomic hybridization analysis of Japanese B-cell chronic lymphocytic leukemia: correlation with clinical course.	塚崎 邦弘	原研内科

Cancer Lett 234: 249-55, 2006	Impact of p53 aberration on the progression of Adult T-cell Leukemia/ Lymphoma.	俵 正幸	原研内科
Leuk Res 30: 1105-1112, 2006	Expression of the myeloperoxidase gene in AC133 positive leukemia cells relates to the prognosis of a acute myeloid leukemia.	田口 潤	原研内科
放射線科学49: 222-224, 2006	自家骨髄細胞による末梢血管再生医療の開発研究.	朝長 万左男	原研内科
長崎大学医学会雑誌81(特集): 266-270, 2006	PET (PET/CT) 癌検診の妥当性と医療用放射線被曝の評価.	岩永 正子	原研内科
日本臨床外科学会雑誌・2006年6月	カポシ肉腫を用いた腹腔鏡補助下に肝外側区域切除術を施行した肝癌の1例	七島篤志	第1外科
長崎医学会雑誌・2006年6月	当科における小児鏡視下手術	大畑雅之	第1外科
Lasers in Surgery and Medicine 2006. 4	Limited Lung Resection Using the Potassium-Titanyl-Phosphate (KTP) Laser	Takeshi Nagayasu	第1外科
Experimental Lung Research 2006. 1, 2006. 2	Noninvasive Assessment of Pulmonary Emphysema Using Dynamic Contrast-Enhanced Magnetic Resonance Imaging	Shigeyuki Morino	第1外科
Liver International 2006. 6	Clinical evaluation of magnetic resonance imaging flowmetry of portal and hepatic veins in patients following hepatectomy	Atsushi Nanashima	第1外科
Digestive Diseases and Sciences 2006. 7	Relationship Between CT Volumetry and Functional Liver Volume Using Technetium-99m Galactosyl Serum Albumin Scintigraphy in Patients Undergoing Preoperative Portal Vein Embolization Before Major Hepatectomy: A Preliminary Study	Atsushi Nanashima	第1外科
Acta Medica Nagasakiensis 2006. 5	Anti-Macrophage Migration Inhibitory Factor Antibody Suppresses Chronic Rejection of Heterotopically Transplanted Trachea in Rats	Yorihisa Sumida	第1外科
Acta Medica Nagasakiensis 2006. 6	A Case of Recurrent Ampullar Carcinoma Undergoing Photodynamic Therapy after Surgical Resection	Yorihisa Sumida	第1外科

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者氏名を記入すること。

(様式第12)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法

管理責任者氏名	病院長	江口勝美	
管理担当者氏名	放射線部長	上谷雅孝,	薬剤部長 佐々木 均,
	総務課長	田島英三郎,	医事課長 大石茂博,

		保管場所	分類方法	
診療に関する諸記録 病院日誌、各科診療日誌、処方せん、手術記録、看護記録、検査所見記録、エックス線写真、紹介状、退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約		各診療科	病院日誌は総務課、処方せんは薬剤部、エックス線写真は放射線部、その他は各診療科で保存	
病院の管理及び運営に関する諸記録	従業者数を明らかにする帳簿	総務課		
	高度の医療の提供の実績	医事課		
	高度の医療技術の開発及び評価の実績	医事課		
	高度の医療の研修の実績	総務課		
	閲覧実績	総務課 医事課		
	紹介患者に対する医療提供の実績	医事課		
	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事課 薬剤部		
	安規 全則 管第 理9 の条 のた め2 の3 及び 確第 保1 の1 各 号に 掲掲 げら る	専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況		患者サービス課
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況		総務課
		医療に係る安全管理を行う部門の設置状況		患者サービス課
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況		患者サービス課
		医療に係る安全管理のための指針の整備状況		患者サービス課
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況		患者サービス課
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況		患者サービス課
	医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	患者サービス課		

(注) 「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。

(様式第13)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び紹介患者に対する医療提供の実績

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

閲覧責任者氏名	赤塚 正夫
閲覧担当者氏名	田島 英三郎
閲覧の求めに応じる場所	総務課

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0	件
閲覧者別	医師	延	件
	歯科医師	延	件
	国	延	件
	地方公共団体	延	件

○紹介患者に対する医療提供の実績

紹介率	73.3%	算定期間	平成18年4月1日～平成19年3月31日
算A：紹介患者の数	12,720人		
出B：他の病院又は診療所に紹介した患者の数	10,486人		
根C：救急用自動車によって搬入された患者の数	942人		
拠D：初診の患者の数	22,437人		

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、B、Cの和をBとDの和で除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。  
2 A、B、C、Dは、それぞれの延数を記入すること。

## (様式第13-2)

## 規則第9条の23及び第11条各号に掲げる体制の確保状況

① 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	(有) (1名) ・ 無
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	(有) (4名) ・ 無
③ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	(有) ・ 無
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 所属職員：専任 (1) 名 兼任 (11) 名</li> <li>・ 活動の主な内容：医療事故防止委員会の運営支援、インシデントレポートの分析、リスクマネージャーとの連絡調整、安全管理に関する教育・研修、安全管理に関する情報の収集</li> </ul>	
④ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	(有) ・ 無
⑤ 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	(有) ・ 無
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 指針の主な内容：「安全管理・報告体制」「本院における安全管理に関する基本的な考え方」「安全管理のため組織に関する基本的事項」「医療に係る安全管理のため従事者に対する研修に関する基本方針」「本院における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とし、たに改善のための方策に関する基本指針」「医療従事者との有に「患者からの相談への対応に関する基本指針」「その他医療安全の推進のための必要な基本指針」</li> </ul>	
⑥ 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年 36 回
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 活動の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医療事故防止委員会 (月1回開催) <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 院内インシデント・アクシデント報告等情報収集</li> <li>・ 医療事故防止のための具体的対策等の検討及び推進</li> <li>・ 医療事故防止のための教育及び研修等の決定</li> </ul> </li> <li>・ 安全管理部会 (月1回開催) <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 安全管理に関する事項の報告</li> </ul> </li> <li>・ リスクマネージャー会議・インシデント・アクシデントレポートの分析の報告 (月1回開催)</li> </ul> </li> </ul>	
⑦ 医療に係る安全管理のための職員研修の開催状況	年 21 回
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研修の主な内容： 別紙のとおり</li> </ul>	
⑧ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医療機関内における事故報告等の整備 ( (有) ・ 無 )</li> <li>・ その他の改善のための方策の主な内容： <p>別紙のとおり</p> </li> </ul>	

## ⑦ 医療に係る安全管理のための職員研修の開催状況 年21回

- ・ 研修の主な内容：
  - 全体研修会（年6回）
    - ・ 「院内ピアレビューからのレッスン：医療の質向上と説明責任」1回
    - ・ 「AED講習会」1回
    - ・ 「院内における輸血療法パトロール結果・報告」2回
    - ・ 「患者サービス課の取り組み」2回
    - ・ 「MR検査に際しての注意点」2回
    - ・ 「AED（自動対外式除細動器）の紹介」2回
    - ・ 院内感染対策講演会 2回
  - 新研修医、新規採用者看護師等を対象とする研修会（年6回）
    - ・ 安全管理について 1回
    - ・ インスリンについて 1回
    - ・ 輸血について 1回
    - ・ 静脈注射について 1回
    - ・ 転倒転落と事故防止 1回
    - ・ 事故防止対策研修 1回
  - 看護部継続研修（年9回）
    - ・ シリンジポンプ技術研修 1回
    - ・ 輸液管理研修 1回
    - ・ 輸液ポンプ技術研修 1回
    - ・ モニターアラーム研修 1回
    - ・ KYT研修 5回

## ⑧ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方針の状況

- ・ 医療機関内における事故報告等の整備 ( (有) ・ 無 )
- ・ その他の改善のための方策の主な内容：
  - ・ 医療事故防止マニュアルの改訂
  - ・ 安全管理に役立つ実践マニュアルの改訂
  - ・ インシデントレポート報告システムの改良
  - ・ 輸液ポンプ、シリンジポンプ等機種の統一
  - ・ 安全管理部員による院内巡視